

奈良・奈良女子大学構内遺跡



(奈良)

調査地は奈良女子大学構内の北東角に位置し、奈良時代の平城京左京(外京)二条七坊三坪、中世の南都北御門郷新乘院・南法蓮、近世では奈良奉行所の北濠と北新町西之町(魚屋西町)にある。木簡が出土したのは近世の井戸と奉行所の北濠からである。濠は奉行所を方形に囲み、幅約九m、深さ約二・二mの素掘りである。後には北岸のみ上半部分を河原石で護岸し土堀

- 1 所在地 奈良市北魚屋西町
- 2 調査期間 一九八一年(昭57) 一月~四月
- 3 発掘機関 奈良女子大学埋蔵文化財調査会
- 4 調査担当者 後藤和夫
- 5 遺跡の種類 都城跡・中近世都市跡・官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代~現代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

溝の上層から出土した。井戸は古代から近代まで多くのものを検出したが、木簡が出土したのは江戸時代前半の井戸の埋土からである。五点出土した。

- 8 木簡の釈文・内容
北濠

- | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|-----|--|
| (1) | 「 | □ | □ | 安 | 永 | 九 | 年 | 當峯修 | |
| | 修 | 大 | 峯 | 柴 | 燈 | 護 | 摩 | 供 | |
| | 月 | 月 | 日 | 日 | 金 | 剛 | 院 | 攸 | |
| | 」 | | | | | | | | |
- 412×9×5 011

「
奉修大峯柴燈護摩供息攸
七月
○金剛院
」

153×30×26 011
(99)×14×1 081

- | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|-----|--|
| (2) | 「 | □ | □ | 安 | 永 | 九 | 年 | 當峯修 | |
| | 修 | 大 | 峯 | 柴 | 燈 | 護 | 摩 | 供 | |
| | 月 | 月 | 日 | 日 | 金 | 剛 | 院 | 攸 | |
| | 」 | | | | | | | | |
- 404×88×5 011

「
奉修大峯柴燈護摩供息攸
七月
○金剛院
」

153×30×26 011
(99)×14×1 081

- | | | |
|-----|-------|-------|
| (3) | 「 | イサガハ」 |
| (4) | 〔傳奏カ〕 | × |
| • | □□□ | × |

118×(18)×2 011
174×45×5 011
177×45×7 011

- | | |
|--------|--------|
| (5) | ・「岩佐氏」 |
| •「祈安全」 | |

118×(18)×2 011
174×45×5 011
177×45×7 011

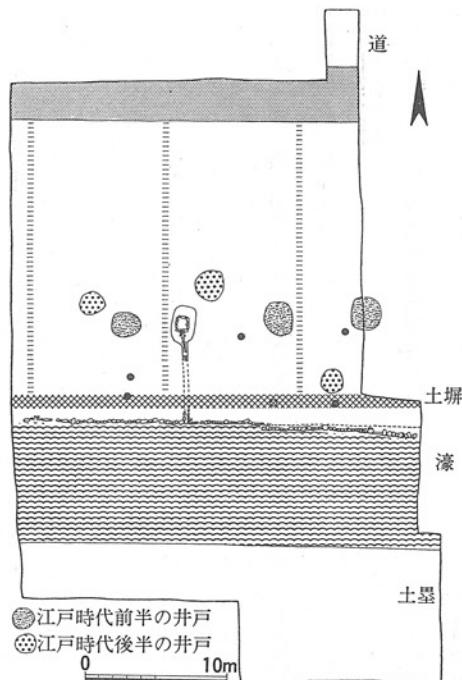
- | | |
|-----|-----------|
| (6) | 「播磨屋」(焼印) |
| (7) | 「かい禰」(焼印) |

1981年出土の木簡

- (8) 「ゑゑ」(焼印) $175 \times 43 \times 9$ 011
 - (9) 「志かゝ」(焼印) $173 \times 45 \times 8$ 011
 - 井戸
「11 <世行」
325×60×8 011
 - (10) 「老老貳」
60×26×8 011
 - (11) 「老老貳」
60×26×8 011
 - (12) •「□□□頭巾別紙」
152×40×9 011
 - 「□ □ □ □」
- (3)は短い角材の片面に墨書きしたものである。藤田文庫所蔵文書によると、この付近には公事人を止宿させる諫川源之助の河内屋があつたとのことである。(3)の用途は不明であるが諫川源之助との関係が考えられる。同濠からは「新通かわちや」とガラスで記した磁器碗が出土している。(6)～(9)は長方形の板の一端に焼印を捺したものである。焼印を捺したものは総計一九点出土した。

9 関係文献

奈良県観光新聞社
「特奈良奉行所跡」(『奈良県観光』三〇九号)
一九八一年
(清田善樹)



奈良女子大学構内遺跡遺構配置図